

歯 車

河北町立西里小学校
学校便り
令和4年2月28日

nishizato



6年生を送る会の様子
などはこちらからご覧
いただけます

ピンチの中で見いだしたもの

新型コロナの第6波は、瞬く間に県内全域に拡大しました。オミクロン株の感染力の強さは、これまでの知見や想定を超えています。本校でも、学年閉鎖の対応をとらざるを得ない状況となりましたが、幸い校内で大きく広がる状況に至っておりません。各ご家庭での、適切なご対応のお陰です。一番有り難いのは「極めて冷静に」対応していただいていることです。他地域では、保護者や地域の方からの感染者に関する問い合わせや詮索、SNSによる噂話の拡散等への対応に苦慮している事例があると聞き、心が痛みます。西里小学校の保護者・地域の方々の「他者をいたわり、子どもを大切に思う」心が、具体的な姿勢となり子どもたちに伝わることで、安心して登校できる学校づくりの土台を築いてくださっていることを強く感じています。本当にありがとうございます。

先日は6年生を送る会が行われました。今年は、体育館に一堂に会することができません。これまでなら、中止にするか、放送で音声だけの内容に限定せざるを得ません。しかし、今年度配備されたタブレットを活用し、各教室をつないでのリモート形式で実施しました。これは、職員が研修を重ね、積極的に活用方法を模索し、子どもたちと力をつけてきたことが大きく功を奏しています。とりわけ、中心となって進める5年生の子どもたち自身が、身につけた力を活用して自分たちでアイデアを出し創り上げてきたことが大きな成果と言えます。また、他の学年の子どもたちもこれまでと違うやり方を楽しみながら前向きに取り組んだ様子。新しい課題や困難に試行錯誤しながら取り組む子どもたちの姿を見るにつけ、子どもたちの柔軟さに感心します。

また、学年閉鎖や大事をとって自宅待機した際に、可能な範囲で学校と家庭をつないで授業を行う、いわゆるオンライン授業に取り組みました。「タブレットがあってこれほどよかったと思ったことはない」と感想を持った職員がいますが、「学びを止めない」というキャッチフレーズを具現化させた本校職員の力と熱意を誇りに思います。また、授業を受けた側の子どもの中には「目が痛い、疲れる」と画面を注視することによる体の影響を改めて感じたり、「意外に集中してできた」と感じる子もいたようで、とても興味深く感じました。

これらのことは、図らずもピンチがきたからこそ見いだすことができたもの。決して、今の状況が好ましいものではありませんが、「当たり前」の日常への感謝」「いざという時のために、まずやってみるものの大切さ」を痛感することができました。

再拡大(リバウンド)防止特別対策期間(2/21~3/6)について

第6波でクラスターが多発した保育施設、学校等の感染防止対策が強化されています。学校では、「たてわり清掃等学年間の交流停止」「CO₂濃度測定による換気方法の見直し」「合唱等、ハイリスクの学習活動停止」など一層の感染防止に努めております。保護者の皆様にも、特に以下の点についてご理解とご協力をお願いいたします。

1 登校前の健康観察の徹底

- ・オミクロン株の特性を踏まえ、本人や同居の家族に発熱、のどの痛み、咳、鼻汁等が見られる場合は登校を控えて、早めに医療機関を受診してください。

2 基本的感染対策の徹底(マスクはウイルス遮断効果の高さから、不織布製が推奨されています)

- ・マスクを外した会話が最大の感染リスクとしてあげられています。外出の際の正しいマスク着用、手洗い、換気、人混みを避ける等、引き続きご協力をお願いします。